



联合国  
粮食及  
农业组织

FOOD AND  
AGRICULTURE  
ORGANIZATION  
OF THE  
UNITED NATIONS

ORGANISATION  
DES NATIONS  
UNIES POUR  
L'ALIMENTATION  
ET L'AGRICULTURE

ORGANIZACION  
DE LAS NACIONES  
UNIDAS PARA  
LA AGRICULTURA  
Y LA ALIMENTACION

منظمة  
الغذية  
والزراعة  
للأمم  
المتحدة

### Liaison Office in Japan

5F Yokohama International Organizations Center, Pacifico-Yokohama,  
1-1-1, Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama 220-0012, Japan

LOJAPR07/06- No.97

FAO (国際連合食糧農業機関) 日本事務所  
2007年6月8日

## プレスリリース

(FAO日本事務所仮訳)

# 食料輸入総額が記録的な高騰

## FAO Food Outlook (食料需給見通し) 2007年6月 - バイオ燃料への需要増が値段を急騰：貧しい国々がより一層の被害

2007年6月7日ローマ発

世界の食料輸入総額が、特にバイオ燃料需要の急速な高まりを受け急騰している、と最新のFAO Food Outlook (食料需給見通し) は発表した。2007年に食料輸入総額は約4、000億ドルを超えると見られ、これは昨年より約5%上昇している。

最もよくバイオ燃料材料として利用される粗粒穀物や植物油の価格上昇が、この度の世界食料輸入総額高騰の大半を占める。これら商品の輸入総額は2006年と比べ約13%も上昇すると予測されている。

飼料穀物の値段の上昇は、そのまま肉や酪農乳製品の価格にも反映し、それらの商品輸入総額の上昇に繋がる。肉や米についての例では、世界的な大規模購入が輸入総額上昇を引き起こしている、と考えられている。

もともと高値で価格が不安定な砂糖は、それが輸入量減少の要因になり、世界の砂糖輸入価格減少につながる、と予測されている。

記録的な高騰の国際輸送価格も、また全商品の輸入総額に影響を与えており、輸入国にとってコスト削減のための新たな頭の痛い要因となっている。

### 貧しい人々により一層深刻な影響

開発途上国全体としては、2007年には約9%食料輸入総額が上昇すると見られている。経済的により脆弱で貧しい国ほど被害がより深刻であり、低所得食料輸入国や最貧国では昨年2006年に比べ、食料輸入総額の上昇は10%に達するものと予測されている。

「2007年の最貧国の食料輸入総額は、2000年のそれと比べて大体約9割増しになる、と見られている。」とFAOエコノミストのアダム・プラカシ

ユは述べる。「同時期の先進国の同じ価格上昇が22%にしかならないのに比べると、最貧国は大変厳しい状況に直面しているといえる。」

### 生産量は増加、しかし需要も同様

2007年の世界の穀物生産予測は21.25億トンで、これは2006年に比べ約6%の上昇で、FAOの先の5月予測をも上回る見通しである。

「世界の穀物生産の極めて好調な回復は良い傾向であるが、他方では、全体の供給量は、伝統的な食料・飼料セクターからのみでなく、急速に拡大成長しているバイオ燃料産業からの増加する需要をかるうじて賄う程度でしかない。」とFood Outlook（食料需給見通し）の著者の1人であるアブドレーザ・アバシヤンは報告する。「つまり、多くの穀物価格の高値傾向は今後数年は続くものと思われる。」

2007年のFAOの米の暫定生産予測量は633万トンと見られており、この数字はほぼ昨年と同様だが、依然として生産量は消費量に不足している。世界の米備蓄量は減少すると見られ、高値が予測される。

同じく世界のキャッサバ生産については、主要生産国での利用、特にエタノール生産を含む産業利用が高まることもあり、昨年以上の生産量が見込まれている。

### 油料種子

油料種子や穀粉価格については、飼料穀物価格の上昇にともない、上昇傾向が続くと予測される。また、通常トウモロコシ価格の上昇は大豆価格の上昇をも誘発する。というのも、両商品は飼料・エネルギー市場両方で競合関係にあるからである。2007-2008年期の第一期市場価格予想では、世界の油料種子生産の着実な上昇傾向は止まると見られ、一方でトウモロコシ栽培は大豆栽培を犠牲にして拡大すると見られている。

### 肉・乳製品

昨年勃発した動植物病虫害が下火になり、消費者意欲が戻ってきて、2007年の開発途上国の肉需要は回復すると報告書は予測する。世界の肉輸出は、禁輸政策が解かれ、市場活動が復活するにつれ、約3.8%上昇すると見られている。

家禽生産物価格については、特に鳥インフルエンザの大発生による2006年初期の18%もの下落から回復することが見込まれている。既に2007年3月までで、世界の貿易供給量の約7割を占める米国・ブラジルにおいて、それぞれ20%、14%も2006年平均から上昇している。

FAOの肉製品価格指標は2006年の低レベルから著しい回復を遂げ、2007年3月は2006年3月時よりも7.6%上昇した。その上、飼料価格の上昇は、肉製品価格上昇を今後更に推し進めるであろう、と報告書は指摘している。

酪農乳製品価格については、現在歴史的な高値となっている。FAOの酪農乳製品貿易価格指標は、2006年11月から約46%も上昇している。粉ミルクの国際価格が最も急騰しており、これは、EU連合の在庫がなくなっていることによるものである。

2007年見通しでは、世界の牛乳供給量は、国際価格に影響を与える国々での持続的な生産拡大により、約2.7%の好調な伸びを示すと見ている。オーストラリアの大旱魃、インドの粉ミルク輸出中止、アルゼンチンの輸出税等が短期的な輸出量減少の要因にはいるものの、EU連合の酪農乳製品政策改革が、その輸出市場シェアの減少により、国際酪農乳製品市場に構造的変化をもたらしており、新しい輸出業者の参入機会が増えている、と報告書は述べている。

FAO本部英文ニュースサイト：

<http://www.fao.org/newsroom/en/news/2007/1000592/index.html>

本件問い合わせ先：

FAO日本事務所 担当： 国安

TEL: 045 - 222 - 1101

FAX: 045 - 222 - 1103

Email: [FAO-Japan-Info@fao.org](mailto:FAO-Japan-Info@fao.org)

[www.fao.or.jp](http://www.fao.or.jp) [www.fao.org](http://www.fao.org)